

楽しみな季節が始まる



脳神経外科 あがり たかし
上利 崇 先生

(3月2日 2014年シーズン開幕。暦では春でもまだ寒さ厳しい3月、Jリーグは開幕する。)

3年前、転居したマンションで子どもたちが仲良くなった長身ブラジル人が、当時ファジアーノ岡山のエース・チアゴ選手だった。彼に誘われるがまま、我が家はカンスタ初観戦。私以外、サッカーに全く興味のなかった家族全員が、そのスタジアムの雰囲気や選手の姿に魅了さ

れ、完全にはまってしまった。

2週間に1度ホーム試合が開催され、普段静かなスタジアム周辺は全く違う熱気と興奮で涌く。スタジアムに入り、狭いゲートをくぐり抜けると、緑のピッチが視界一杯に広がってくる。この瞬間は、日常から非日常に足を踏み入れた感覚となり、気分がとても開放される瞬間でもある。いつもの席に座ると、すでにビールが何杯か進み、すでに臨戦態勢?となっている常連の方達がいて、ファジ談義に花を咲かせる。

試合中の選手の姿は逞しい。もともとコンタクトスポーツの経験がない私(バレーボール)は、ボールを追って激しくぶつかり合う選手たちに大変感銘を受ける。試合の状況がどれだけ不利であっても、またどれだけの悪天候であっても、運動量を落とすことなくひたむきにボールを追いかけ走り続ける選手の姿は、観るものに言いようのない

感情を起こさせる。

最後の1秒まで諦めないその姿は、子どもたちの心にも強い憧れと勇気を与えてくれるようだ。観戦がきっかけでサッカーを始めた息子は以前より弱音を吐かなくなった。大好きな選手の頑張りに感化されて、娘たちも努力の大切さを覚えたようである。子どもたちはファジアーノ岡山のサポーターであることを誇りに思っている。

選手が攻め上がるときの歓声、ゴールが決まった時のスタジアムの熱気とうねり、選手サポーターが一体になって闘う雰囲気。この文章を書くだけで、気分が高揚するくらいに楽しみな空間である。この熱気、まだ未体験の方は是非1度、カンコースタジアムに行ってみませんか。地元岡山のファジアーノ岡山を皆で盛り上げましょう。

上利先生は脳ドックセンターと金曜午後の外来診察を担当されています。

Doctor's Eyes